

本校の地域連携・地域交流

都留市立都留第一中学校

学校教育目標「自ら学ぶ 心豊かな生徒の育成」実現のために、地域連携によって学校での学びを社会と結びつけ、生徒のより意欲的な学びへとつなげていくように方向付けていく

1 経緯

地域連携事業として実施してきた活動と将来性、教育効果、教育課程との関連を検証し、次年度へ負担感無く、教育効果を上げていけるように引き継ぐことを検討してきた。地域や行政からの要請・学校の裁量で始めたもの様々であるが、実施したことで教育効果があったものや、改善が必要なものもあった。4月に職員全体で合意形成を行い、教育課程の中で年間活動に位置づけ、計画的に実施していくことを確認した。また、今後、CSに組み入れられていく可能性もある事業もあり、これらのノウハウを蓄積していくことでスムーズに移行していくことも視野に入れている。社会に開かれた教育の実現のため、学校ができることの最適化・最大化をめざしていきたい。

2 持続可能となる視点

学びの質をあげ、子供たちにとって教科書の教材（教育課程で学ぶ内容）が身近になり（実際の生活に役立つ学習となり）、教育が保護者、子供たちにとって関心の高い内容になることを目標にして、学校と地域が子供を育てるために連携する。子供に好影響を与えることのできる機会や人を引き合わせる仕組みを創っていく。

3 長期的な視野での計画

年間の教育課程の中で学校目標達成のために必要な具体的取り組みをピックアップする。

「だれが、なにを、いつまでに、どのように」行うのか学校の教育課程内の中で役割を分担し、PDC Aサイクルを繰り返す中で持続可能な取り組みとしていく。しかも、楽しく、無理することなく、欲張りすぎずに。生徒の成長に合わせ、「3年間を通して」の活動または「〇年生の△学期をめざして」のように短期、長期のバリエーションを持たせ、無理をしすぎないように心がける。

苦情を言うのではなく、協働していく意識を醸成していく・・・そのため年度末の検証と年度始にある程度の周知期間がないと、急な企画は疲労感があるので避けるようにした。

4 持続可能な取り組みにしていくために

生徒達の学びの新たな形をつくっていく。活動の中心は生徒。学校だけでは実現できない教育を創りあげていく。地域の教育力を学校教育に取り入れる。教員の働き方にも好感の持てる内容にしていく。地域住民、連携する団体、保護者も含め、参加意義のある事業、当事者意識を育む。（目的意識を持った人たちが構成していく）

R7年度日程【確認済み】	内容
6/9⑤⑥	あすチャレ！スクール（ゴールボール）
6/18⑤⑥	学校プライダル事前指導
7/10⑤⑥	学校プライダル当日（うぐいすホール）
7/10⑤⑥	富士学苑高校ジャズバンド部交流
7/14④⑤	都留興譲館高等学校 出前授業①（教員）
7/14 放課後	文芸部ペン立て寄贈（都留市役所など）
夏休み8月上旬	生徒による小学校への出前講座（SEC）
8/4～8	学力向上フォローアップ ○教員補助員・学習支援スタッフ ○学習院大学学生
9/16 放課後	谷村第二小学校ソーラン節講師
9/24⑤	（ソーラン隊6名による）
9/19⑤⑥	都留文科大学体験授業
9/19⑤⑥	産業技術短期大学校体験授業
9/23PM	開地保育園交流イベント参加 （ソーラン隊代表10名・吹奏楽部）
9/24⑥	老健つる交流訪問

9/25⑥	弁護士による講和 身近な平和～いじめについて考える～
10/21②③	青藍幼稚園交流会
10/30⑤⑥	都留興譲館高等学校 出前授業②（生徒）
10/31②休	中学校へのハロウィン訪問
11/6⑥	デフリンピック代表 藤本六三志さん講話
事前 11/5	モールドモデル 地域企業訪問
本学習 11/18	ものづくりの現場を通じた地域の再発見
事後 12/9	工場見学・職場体験・地元産業の魅力を体感
11/17・21②③	開地保育園 保育実習
11/19PM	ファナック工場見学
12/4⑤⑥	認知症サポーター養成講座
12/17⑤⑥	子育て支援課 赤ちゃん抱っこ体験
3/3, 5	生き生き地域人材活用事業（合唱指導）
	水素の出前授業
実施なし	警察講話
実施なし	ファナック出前授業
	ソーラン節交流（2/22 うぐいすホール）
	第一生命出前授業